

職業紹介及授産

吉 村 敏 男

共同宿泊者の多くは大抵定まつた職業を持つてゐない、「なんでもやります」と融通のきくところ甚だ重寶のやうでもあるが、此のなんでもやに限つて、特技も無ければ職業に對する執着も無い譯で、一定した職業を持たぬ弱點が常に失業離職の憂き目を經驗させられてゐる。斯うした人達に職業を紹介し或は授産して社會生産に快ろよく參與せしむることは何れの點から考察しても最も必要なことであるがそれが又最も至難な業である。

本館は共同宿泊所の開始と同時に職業紹介部を併設し在館者及外來者に對して極力無料職業紹介の勞を執つた、然してその就職歩合は求人求職に對して最も低いパーセンテージを示すに過ぎぬが之は「紹介成立」の範圍を嚴密に調査した結果で相當の實績を挙げ來つたことを信ずるものである、又一面在館者達が就職能きない場合、或は降雨の爲めに屋外の労働に従事し得ない際の救護手段として授産事業に着手した、元來授産と言つても莫大の資金を投じて營業化し得るものでないので先づ職業輔導の意味で明治四十五年六月二十四日、大阪市役所からシンガミシン機械十二臺の拂下げを受け館内に手藝室を設けて大正四年三月まで各種裁縫の賃仕事を行はしめた、又大正三年七月廿八日に難波警察署から荷積小車十二臺の拂下げを受け別に新しく大中小車等二十九輛を購入し一日金五錢の使用料を徴して荷車の

賃貸を爲し徒手空拳の浮浪者に勤勞の武器を供給した。大正八年七月二十日春分
が此の間の利用延人員二萬六千人に達してゐる。大正十三年六月一日向上館を開館して婦女子の在館者が一時に激増したので之等の人達の爲めにゴム爪掛加工の内職作業を始め大正十五年七月末まで二年餘引き續き本館講堂で専任技術者指導のもとに愉快な勞務に勵んで相當の成績を挙げた此の間に仕上げた爪皮製品約壹百萬足、工賃七千圓從業延人員一萬餘人であつた。

職業紹介と授産、そは斯業



(大阪自賑館授産場)

に關與するもの、等しく經驗する共通の悩みであつて其の完璧を誇り得るもの寡聞にして未だ之れを知らぬ、我れ等亦聊か驥尾に附して妥當適法の對策を研鑽講究すと雖も常に種々なる障礙に遮られて具體案の發見に焦慮するもの、願はくは徹底せる社會政策の進展と産業政策の合理的發達によつて失業防止策の確立を要望し更らに進んではニユージランドのその様の様に失業徒食者の影を絶つ時の來らん事を祈念して息まぬ次第である。

人事相談

吉村敏男

「貧乏に追いつく稼ぎなし」と悲鳴を擧げるものが多いが蓋し現代世相の一面である。働けど働けど猶ブーアラインに彷徨して宿命的なあきらめに絶望の眼を閉づるもの、働くべき意志もあり頑健な肉體をも恵まれながら職を得ないで放浪するもの、精神的肉體的の缺陷や疾病の爲めに世に顧られない不遇者狡猾な強者の無情に虐げらるゝ下積みの群れ、無智な肉親や不善な環境に自然の成育を阻まれる兒童、等々。小さい窓口に投げつけられた斯うした幾多の社會悲劇は、血の滲むやうな人間苦の喘ぎばかりで悉く疲労と困憊と神經衰弱との生きた縮圖で、我れ等の視野に映じた社會世相は決して健全な歩調を辿るものとは思へない。科學の進歩、都市の膨脹、そは各人に萬遍なき幸榮をもたらすべき福音ではなくて益々人生の理想郷への懸隔を大ならしむべき過程の反映ではあるまいか。

さりながら我れ等は社會改造の論者ではない、どこまでも現實に即し事實に立脚してあらゆる社會協同の障礙を除去し、共存共榮の美はしい社會の完成に奉仕の誠を捧げねばならぬ、撒水式の慈善事業ではない、富める者より貧しき者への恩恵でも無い、純真なる自由、自主、自治の節度に従つて互に人生を禮讚し、人格を尊重しつゝ總てが向上し前進する爲めの道しるべであり後援輔導の機關でありたい。

我が人事相談の限界は頗る多岐多端で廣い意味では窓口の受附事務が既に「相談」の範圍に屬するも

のが多い、例へば泊めて頂けませんか、妻子を擁して住むに家なく職なく食無き私共の責任の重さをまねかせぬかなどと至極平凡な應對に於ても唯單にイエスカノーで諾否を決定宣告する事は餘りにも彼れ等の心境を解しない事務的行爲で、苟しくも防貧感化救濟保護の責務を負ふ我れ等は今一步純なる同情と理解を基調とした『親切味』をもつて其の胸底に秘められたる苦惱の琴線に接觸して『激勵と慰安』の温かき言葉を饒けする必要がある、『私共の親切だけでも受け入れて下さい』とは我れ等が信條とする筈言で、セツパ詰つた現在の空腹を慰へられて安價な生命拾ひをしたことは數限りもない、中には堂々人事相談部と指定して業態非道な無理と横車のつつかい棒に利用しやうとする痴漢もあれば、又少しの助力に感激の涙を浮かべて顔を上げ得ないやうな感傷的な弱者もある、更らに複雑微妙な身上の處置家庭の紛争、釋放者や不良青少年の保護、貧困や疾病に關する對策、戸籍寄留の手續、一般願届や信書の代書まで雜多な問題を、唯隣人としての好意を以て應接してゐるので相談事務は可也に多い。

取扱ひの手續きは常識的に『道しるべ』の役目を勤めて反省を促す時もあれば教訓説示を爲す場合もあり、或は文書によつて交渉の勞をとるなど、直接間接に事前解決の衝に當つて人生の行きづまりを開拓し、よりよき生活へ前進せしむる爲めに方向轉換のトンネルの役目を爲すのを主眼としてゐる。

斯うした簡単な處置ながら在館者は無論の事、我が門を叩く外來者の總てに不自然な煩悶や無益な苦艱から脱れて心機一轉、絶望から希望へ暗黒から光明へと廻れ右をさせ得る事は兎ても愉快である。

貯金

吉村敏男

先づ働け、汗を流して働け、そして其のよつて得たる收穫を善積して之を後日に備へよ。
炳として日星の如く我れ等が奉戴する 聖訓自強不息は撓みなき精進と努力を義務づけて汗と力の結晶を貯金せよと、嚴かに館規の一條に明記して例外なく在館者の恪守を強要してゐる。

然しながら豫て不測の災厄に禍ひせられ脆くも人生の苦難を嘗め盡して今茲に七轉び八起きの雄々しき首途にある在館者達に更めて貯金の功徳を説く必要もない、ことほど總ては之れ眞剣な力闘を續けて一意向上の彼岸に突進邁進、黙々として耐忍の汗を流す人達の集團であり又しかする事を深く堅く誓つた人達ではあるが實際には事志と異つて獎めても勵ましてもなかなか貯金のメーカーは昇つて來ない。

生命をつなぐ其の日の種でさへ容易に得難い不利の條件で苦役に従ふドン底の境涯では餘程の覺悟と克己不撓の意志が無ければ到底明日の生活に備ふる爲めの「用意」は至難に屬する。此の立場から假令些少の額であつても日に月に絞り出した幾何宛の貯蓄が膨脹し、成長して行くことができれば夫れこそ奇蹟に等しい満悦であり應に想像を超越した感激であらねばならぬ。

やつとの思ひで基礎だけ出來た、今一憩といふ處で失業離職、或は疾病などと不可抗力の災禍に妨げられて根底から破壊されるゝこともあれば或は又不覺の誘惑に地金の錆を現はして千仞の功を一簣に缺ぐ

(34)

やうな失策もしばしば繰り返へされる悲喜劇で運命の惡戯はどこまでも辛い、かうした中にも改々役々の効を積んで、かなり纏まつた粒々辛苦の結晶を掌にして晴れやかな面持ちに感謝の涙を浮かべられると一瞥の助力をなした我れ等も亦感激の涙を禁じ得ない。

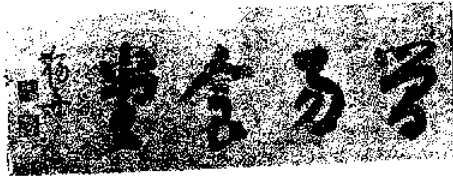
本館で取扱ふ在館者貯金には總て年五分に相當する利子金を毎年五月と十一月の兩度に交付して貯蓄心の奨勵助長に努めてゐるので、最近貯金高の激増を來たし取扱件數も亦倍加の趨勢を示してゐるのは頼母しい。乍然全體の金額が増額せないのは新陳代謝の頻繁な事業の性質上止むを得ない處である。

又大正十五年一月から向上館ホームと問貨部の主婦達を勸説して日掛二錢の臺所節約貯金を開始した之は毎日の蔬菜購入などに主婦が少しの心掛け一つで日常生活に相當な「むだ」を省くの可能を實際に訓練するのを目的として一家庭一口以上の加入を義務づけてゐる。此の種貯金の常として在館者の異動に伴ひ脱退或は中途加入など屢々ある上、加入者もある期待と執着を持ち易いので一口金拾圓に達するとい先づ解散して一年有半の丹精の美果を頒つ事としてゐるので自強の晴着や記念の家具が更改毎に家庭を賑はして異彩を放つてゐる。此の舉は一日僅か二錢の節約貯金で敢て奇特の所爲でもないが間接的に零細な資源を楔として在館の主婦達が一層隣保親睦の交りを深くし更らに相競ふて勤儉力行の良俗美風を馴致し世帯主も亦激勵せられて晨に星を戴いて出で夕に月を踏んで歸る本館のマーク「月と星」のシンボルを實踐して躬行之れ努むの源泉となつた事實は看過し得ない一收穫であると確信する。

(35)

在館貯金成績

年度	種別	預	取	出	人員	未	成
年度	種別	金額	件数	金額	件数	金額	金額
明治四十五年	種別	五九	不詳	五九	不詳	—	—
大正元年	種別	六三、一〇〇	不詳	六三、一〇〇	不詳	—	—
大正二年	種別	四七三	不詳	四〇七	不詳	六六	一七八、一五
大正三年	種別	六六三	不詳	六九三	不詳	三六	一六四、一五
大正四年	種別	一、八四四、一六	一、一三五	一、八二八、一六	一、四三九	五六	三四三、三〇
大正五年	種別	三五七	一、三九四、〇四	三三七	一、二四、八九	五〇	三三三、三〇
大正六年	種別	三六七	二、八六七、〇〇	三七二	一、二四、八九	五一	二九〇、四〇
大正七年	種別	六七四、一〇、三八一、六七	四、〇九九	六三三	九、七〇五、一二	九二	九六六、九五
大正八年	種別	三四五、一四、二五六、七四	二、八五三	三八五、一四、四二七、四〇	二、五一〇	五二	七九六、二九
大正九年	種別	二八九	六、五〇二、五七	三三二	六、八八二、二二	一〇	四一六、六四
大正十年	種別	七二	八四九、二九	六五	一、〇六五、四七	一七	二〇〇、四六
大正十一年	種別	一〇二	一、九六七、八五	七四	一、八三九、一二	一七	三三九、一九
大正十二年	種別	二三	一、三九四、七二	五一	一四、七五、五七	一六	二四八、三四
大正十三年	種別	四七	一、三一〇、五六	四五	九〇三、一〇	二〇	六五五、八〇
大正十四年	種別	六一	二、七五四、七〇	三〇	一、八一五、四〇	一八	四九一、五九五、一〇
大正十五年	種別	二四	三、〇二五、四〇	二〇	一、九四五、八〇	一六	五三二、六七四、七〇
昭和元年	種別	四六	二、一七二、四五	四二	二、九九三、九五	五七	一、八五三、二〇
昭和二年	種別	一九	二、四八六、八五	二七	二、四六六、一五	四九	一、八七三、九〇
合計		三、六二〇、五五、二九九、九二	一七、〇九六	三、五七二、五三、四二六、〇二	一四、二八九	—	—



簡易食堂

吉村 敬 男

社會の興隆發展は各人の全一的向上進歩に俟たねばならぬので、變態的一時現象としての好景氣來は却て社會的に重大なる惡弊をもたらしことは既に歴史の證明する所である。我國に於ても大正六七年のころ謂ゆる好景氣の餘波を受けて物質文明の跋足的發展を招來した爲めに識者の深愛は日と共に加重した、茲に本館は時弊に鑑みる所あり大正七年二月米價の暴騰を機として下層労働者の生活を得易からしめん爲めに實費食堂を創設し、府尹林市藏氏に乞ふて「簡易食堂」の命名を忝ふした。

之れが設營に就ては始め各區の細民街、就中労働者の集散はげしき場所を詮議したが偶々南區日本橋筋東一丁目所有者井上重造氏の義侠的援助により敷地百二坪の無償借地を得、假設建物七十一坪七合五を建築して大正七年六月六日、社會民衆の大なる期待と祝福の裡に雄々しき開館の首途に立つた。何分にも急造した假設建物で壯麗華麗の趣きは乏しくとも小さつぱりと居心地のよい造作は文字通り民衆的食堂の名に背かない。緑滴る植木鉢を並べた入口の手洗場て先づ汗と埃りに汚れた顔を洗つて一食十錢の食券を買求め、白布に覆はれた食卓に着くと定食の膳が運ばれる、軽い蓄音機のリズムが緩や

かに流れて卓上に配された花瓶の花が静かに餘香を放つてゐる。喧噪雜鬧の街頭に玉なす汗を絞つて勞働條件の可否を云爲する彼れ等下積みの群れも暫し苦役力闘の生活憂悶を離れて和らぎのある室内の空氣に感謝満悦の至情を湧起するのは蓋し人間性の自然であらう。

「人生行路のオアシス」として毎日吞吐する利用者壹千人を超へ一時に百人の配膳を爲し得る設備と能力は當時の社會施設に一光彩を放つてゐた

「始め之を企劃するや全國未だ嘗て類例のものなく従つ



看板を見ない所はないほど普遍化したのが、然も簡易食堂は何んの動機と主唱によつて發生し、なんの意

て參考資料に乏しく開業後の成績は將に勃興せんとする社會事業の前途に至大の關係を及ぼすべきを慮り料金の均一、食料の新鮮、價格の低廉、使用人の撰擇、器物及調理の衛生的なるべき等最も意を致したり」(大正七年度事業報告)と創業當時の苦心は逆も想像の外である。

現今いづれの都市に於ても社會施設としての簡易食堂は到處に經營せられ又内地は勿論植民地の都鄙を通じて簡易食堂の

味によつて斯く命名されしかを知るもの果して幾何であらうか……。

創業當時我れ等に寄せられたる社會一般の理解と同情とは洵に涙ぐましいまでの状況を呈し、府尹林市藏氏を始め小河博士等開館匆匆御試食の光榮を得、伯爵後藤新平閣下は親しく御視察の上「第一簡易食堂」の健筆を揮はれて我れ等の意氣を鼓舞鞭撻せられ、各種の新聞雜誌社も亦激勵讚辭の筆を揃へて聲援の勞を吝まれなかつた、殊に開館幾何もなき同年八月各地に蜂起せる米騒動の不祥事に際し米穀商を襲撃掠奪したる暴徒らは途上食堂用精米運搬の車馬に對し誰一人危害を加ふるものなく反つて群集が道を開いて之を保護し搬入上ならん支障なからしめた事實は如何に社會公益上必要なる施設として世人に承認歡迎されたかを實證して餘りありと謂はねばならぬ。

經營三年七ヶ月、利用延人員七十餘萬人、刻苦精勵の我れ等の努力と缺損金總計壹萬餘圓の尊い犠牲は「簡易食堂」設置の基範を示して之れが普及は忽ち全國を風靡し公私を擧げてその設置に巨資を投じ或は設計設備に改善を加ふるなど隨所にその規を同ふして成果を擧ぐるものが續出したのは國家社會の一大慶福で本館の最も光榮とする處である、隨て何時までも我れ等の苦難を忍ぶ必要もないので茲に本館評議員會の議に附し遂に大正十年十二月末日限り光輝ある第一簡易食堂の閉鎖を斷行した、然して我が簡易食堂が永遠に我が國社會事業の缺ぐべからざる施設として社會民衆の利便と福祉の爲めに裨益する所あらば我れ等も亦餘榮を頌ち浴するものである。

廉 賣

部

瀧 成 太 郎



在館者に對する保護誘導の途は唯に收入増加の方策ばかりでなく消費經濟の上にも細心の注意を拂つて幾分でもその生計に餘裕の出来る手段を講ずることが必要である、又附近地に於ける細民階級者に對しても日用品その他の物品を廉價に供給することは隣保事業である本館の意義ある奉仕の一策でもあるのである。既に設立の當初に於て日用品の廉賣部を併置した、然して廉賣部の發展は叙上の使命を果たすのみならず一面その剩餘金を本館經費に補足し得る便宜もあるるので相當深い期待をかけて努力したのである。就中大正六年十二月、時局の重大な影響を受けて各種の物價が暴騰し一般民衆の生活を脅威すること夥しく、搦て加へて小賣業者中、暴利を貪る者があつて世論喧騒を極めたので此の際小賣業者の自覺を促がし且つは細民階級の生活緩和に資する爲め左表の通り白米及醬油の大廉賣を開始した。

開設場所	開始年月日	閉鎖年月日	白米賣上高	醬油賣上高
朝日橋	六、一二、一九	七、一、二七	九四〇〇	二、八〇
天王寺	六、一二、二四	七、一、三一	一八〇、四八	七、七〇
九條	六、一二、二四	七、一、三一	四一、〇〇	二、一〇
玉造	六、一二、二五	七、一、三一	五五、九八	一、七五
會根崎	七、一、一五	七、一〇、三〇	二五一、五二	二九、九〇
難波	七、一、一八	七、一〇、三〇	二〇六、七一	一五、四〇
鶴橋	七、一、二二	七、二、七	一六五、〇〇	—
今宮	七、二、一五	七、一〇、三〇	一四〇、七七	三三、三六
計	—	—	一、一三五、四六	九三、〇〇

期間の最短は鶴橋町の十五日間で最長は會根崎の九ヶ月餘この總賣上高白米壹千百餘石、醬油九十三石で市民の消費經濟の上に洵に九牛の一毛にも達しない程で無論その生活安定の一端に價ひしたとは思はないが、これが規範となつて公設市場の運動が勃興し素張らしい發展を招來して今や各地にその機能を發揮し、克く本館が着眼した理想を實現せらるゝ濫觴となつたことは本館の私に欣快とする所である。その後當館廉賣部は今宮本館一ヶ所のみで存続し現在供給するものは木炭、オガクズの配給と日用雜貨の一部並に煙草の小賣に過ぎない程度で賣上年額は平均五千圓である。